

# どうして心臓外科を選んだのですか？

女性医師が一人でも多く外科を選択し活躍されることを期待

「どうして心臓外科を選んだのですか？」とよく聞かれますが、「どうして医師になろうと思ったのですか？」とはあまり聞かれませんが、私が医師になろうと思ったのは、幼少時に体が弱かったことが影響しています。小学生1年生の、明日から冬休みという日に入院し、数か月の入院生活を送る間、北里柴三郎先生やキュリー夫人の伝記に感銘を受け医師を志しました。小学校では制限が多く、体育はいつも見学で、運動は大の苦手でした。中学入学と同時に運動を許可され、仲の良い友達と一緒にバドミントン部に入部しました。その後、逆上がりも

逆立ちもできないままでしたが、運動部の活発な大阪医科大学に入学し、学園祭でのクラブ対抗リレーで初めて競走しました。そのリレーで他の女学生を次々と抜いた瞬間のことは今でも忘れられません。「私でも、医学部であれば運動部でやっていける。」これは私の人生において大きな発見でした。部活で体力をつけながら、本業の医学部の授業では生化学と生理学がとてもおもしろく、臨床を学んでも「人体はブラックボックスだ。中の仕組みが知りたい。」と思いました。

最終的に私が心臓血管外科を選択した理由は2つあり、心筋保護・再生への興

味と、外科における男女医師数の偏りです。患者さんは外科であってもほぼ半数が女性であるため、ある程度の女性医師がいた方が良いと思います。私が入局した当時、医局には女性医師が2名おられ、彼女たちの存在がなければ入局はしなかったと思います。昨年12月に米国で発表されたデータによると、急性期医療で女性医師が担当した患者の死亡率が男性

が担当した場合よりも約5%も低かったと報告されました。その明確な理由の解明には今後の研究が必要ですが、女性医師にとってはなんと勇気づけられるデータでしょうか。私がそうであったように、私たちの存在で後進の女性医師が一人でも多く外科を選択し活躍されることを期待しています。

神吉 佐智子

所属：大阪医科大学 外科学講座胸部外科学教室（心臓血管外科）  
卒業大学：大阪医科大学

経歴：

大阪教育大学教育学部附属小・中・高校卒業

1999年 大阪医科大学胸部外科入局（心臓血管外科専攻）

2005年 大阪医科大学大学院修了（医学博士）、大阪医科大学助教（任期付）

2007年 米国 Brigham and Women's Hospital/Harvard Medical School  
Research fellow

2010年 帰国後から現職の大阪医科大学胸部外科学教室助教（心臓血管外科）

趣味：海外旅行、語学習得、美術品蒐集、山歩き

好きな言葉：「為せば成る、為さねば成らぬ何事も—“Where there is a will, there is a way”」

